

保管用

ご使用前に必ずお読みください。

厚生労働省「安全帯の規格」適合品

取扱説明書

胴ベルト型安全帯 U字つり専用 柱上用安全帯

1版

このたびは、《タジマ柱上用安全帯》をお買い上げいただきありがとうございます。

本品は、通信線工事・配電線工事・送電線工事等の高所作業に用いる安全帯です。

ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容をよくご理解の上、ご使用ください。△危険・△警告・△注意の項目は、事故を未然に防ぐために厳守してください。

この取扱説明書は、いつでも活用できるよう大切に保管してください。

また、より安全なご使用のため、産業安全研究所技術指針「安全帯使用指針」(NIIS-TR-No.37 (2004))の併読をお奨めいたします。

取扱説明書を紛失された場合は、弊社HPにも掲載しておりますので、プリントアウトして保管してください。

HPアドレス：<http://www.tajimatool.co.jp>

(HPトップページにある「取扱説明書」のボタンをクリックしてください)

この安全帯はU字つり専用です。

●目次

	ページ		ページ
1.用途	2	5.柱上用ランヤード	12
2.柱上用安全帯の構成	3	5-1.柱上用ランヤード 各部名称	12
3.胴ベルト	4	5-2.フックの操作方法及び掛け方	12
3-1.胴ベルト 各部名称	4	5-3.伸縮調節器を3way環に取付ける方法	12
3-2.ワンタッチバックルの長さの調整方法	4	5-4.柱上用ランヤードの使用方法	12
3-3.ワンタッチバックルの使用方法	5	5-5.伸縮調節器の操作方法	13
3-4.ワンフィンガーバックルの使用方法	5	6.必ずお守りください（使用上の注意事項）	14
4.柱上用胴当てベルト	6	7.点検と廃棄の基準	20
4-1.柱上用胴当てベルト 各部名称	6	8.保管と手入れのしかた	23
4-2.SEGサスペンダー・SEGハーネスの取付け方法	6	9.交換の目安（耐用期間）	23
4-3.胴ベルトの取付け方法	9	10.性能	24
4-4.柱上用胴当てベルトの装着位置	11	11.お客様相談窓口	24

1. 用途

タジマ柱上用胴当てベルト・柱上用ランヤードはU字つり*作業専用です。1本つり**作業には使用できません。

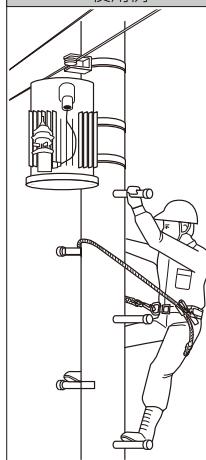
1本つり作業でご使用の場合には「1本つり専用ランヤード」を使⽤し、柱上用胴当てベルトを⽤せず、胴ベルトのみの状態で使⽤してください。

*U字つり

ランヤード先端のフックを構造物に回し、フックを柱上用胴当てベルトのD環に掛けてランヤードがUの字状態で身体を支える作業状態をいいます。

**1本つり

ランヤード先端のフックを構造物に直接掛けるか、構造物に回してロープに掛けてチョークつり状態とし、構造物と人体とがランヤード1本でつながっている状態をいいます。なお、1本つり状態ではランヤードに体重を預けるような作業には使⽤できません。

使用例	用 途
	通信線工事・配電線工事・送電線工事など高所作業現場で、墜落を防止するため使用します。

●体重（装備重量）* の制限について

体重は100kg以下でご使用ください。

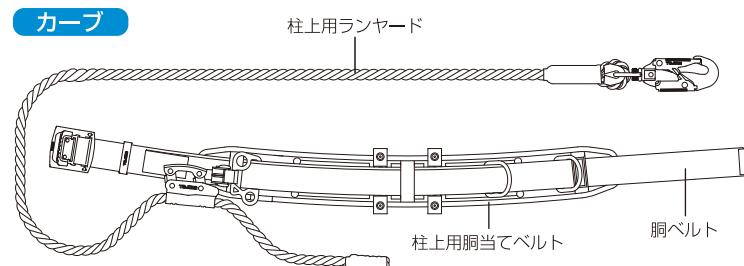
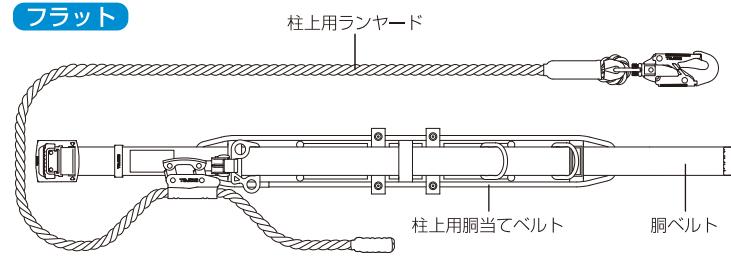
体重が100kgを超えると墜落時に大きな荷重が加わり、安全帯が破断して重大な事故が起こるおそれがありますので使用しないでください。

* 体重（装備重量）：体重と装着する全ての物の合計重量

2. 柱上用安全帯の構成

この安全帯はU字つり作業専用です。バックルの付いた胴ベルトと左右に環を縫い付けた柱上用胴当てベルト、およびロープの長さを調整できる伸縮調節器の付いた柱上用ランヤードで構成されています。

胴ベルト + 柱上用胴当てベルト + 柱上用ランヤード



3. 胳膊ベルト

3-1. 胳膊ベルト各部名称

●ワンタッチバックル

フラット

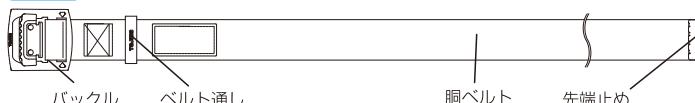


カーブ



●ワンフィンガーバックル

フラット

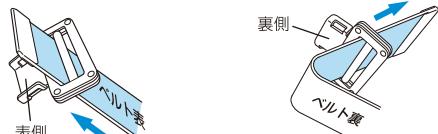


カーブ



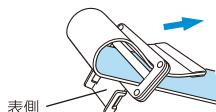
3-2. ワンタッチバックルの長さの調整方法

①裏側の刻印[△]にベルト先端を通してください。

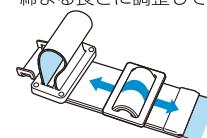


※ベルトの表 / 裏に注意してください。

②次に表側の刻印[△]にベルト先端を通してください。

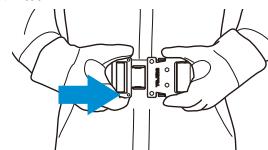


③胳膊ベルトが腰骨の上にしっかりと締まる長さに調整してください。

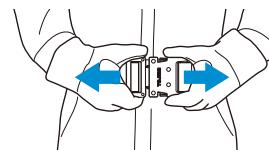


3-3. ワンタッチバックルの使用方法

●連結するとき

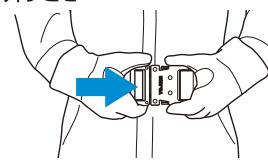


①片方の手でバックル本体を保持し、差込みプレートを本体の奥に当たるまで差し込みます。

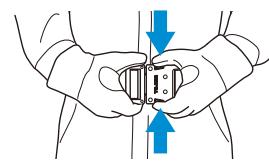


②両方のロック解除レバーがロックの位置にあることを確認し、さらにベルトを左右に引っ張り、バックルがロックされていることを確認してください。

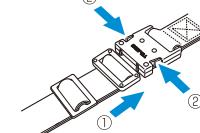
●外すとき



①差込みプレートをバックル本体側に押し込みます。



②同時にロック解除レバーを押さえると差込みプレートが外れます。



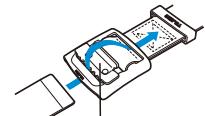
3-4. ワンフィンガーバックルの使用方法

●バックルにベルトを通す方法

スライドバックル部分を開き、バックルの裏側の刻印[△]の所にベルト先端部を通します。

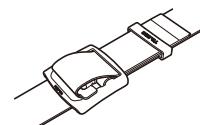
次に、表側の刻印[△]に入れてください。

余ったベルトはベルト通しに必ず通してください。



●バックルからベルトを外す方法

ベルトを外すときは、必ずスライドバックルを開いて外してください。閉じたままの状態で外すと、スライドバックル部分とベルトの先端止めが引っかかり、破損の原因となります。

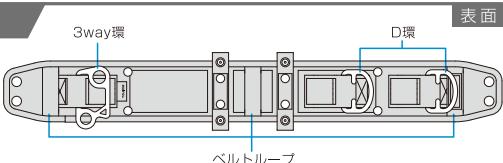


4. 柱上用胴当てベルト

4-1. 柱上用胴当てベルト 各部名称

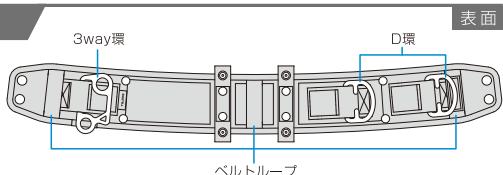
CFX650/750/850

参考ウエストサイズ※
CFX650 約80cmまで
CFX750 約100cmまで
CFX850 約120cmまで



CCX650/750/850

参考ウエストサイズ※
CCX650 約80cmまで
CCX750 約100cmまで
CCX850 約120cmまで



※参考ウエストサイズはあくまでも目安です。着用する作業服の厚さなどにより異なります。

D環は、650 サイズは1個、750・850 サイズには2個ついています。

4-2. SEGサスペンダー・SEGハーネスの取付け方法

△注意 SEGマークのないサスペンダー・ハーネスは取付けられません。
ご使用前に必ず組合せるサスペンダー・ハーネスの取扱説明書もあわせてご確認頂き、正しくお使いください。

胴当てベルト	対応表		
	S	M	L
CFX650・CCX650	○	○	※2
CFX750・CCX750	○	○	○
CFX850・CCX850	※1	○	○

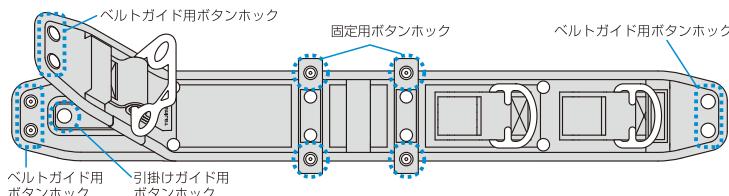
※1.P10を参照に、サスペンダー・ハーネスの固定用ループに胴ベルトを通し固定。(引掛けガイド内側)

※2.P10を参照に、サスペンダー・ハーネスの固定用ループに胴ベルトを通し固定。(引掛けガイド外側)

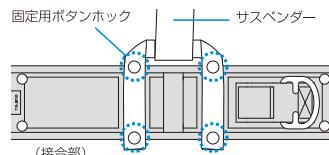
サスペンダー・ハーネスと胴当てベルトの組合せは同サイズのものをおすすめします。

SEGサスペンダー

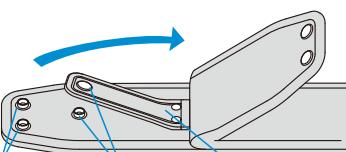
〈サスペンダーとの接合使用部〉



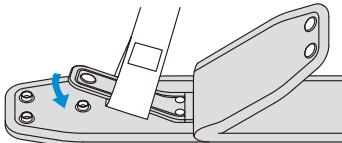
①柱上用胴当てベルト中央の固定用ボタンホックとサスペンダーの接合部の固定用ボタンホックの位置を合わせて、しっかりとまるように奥まで押し込んで止めてください。



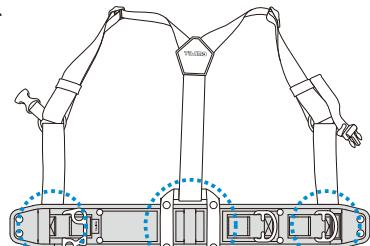
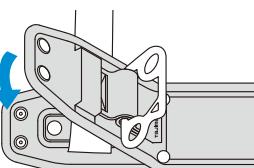
②ベルトガイド用ボタンホックを外し、ベルトガイドを開きます。露出した引掛けガイド用ボタンホックを外します。



③引掛けガイドに図のようにサスペンダーの固定用ループ部を通します。その後、引掛けガイド用ボタンホックを閉じて固定します。その際ベルトがよじれないようご注意ください。



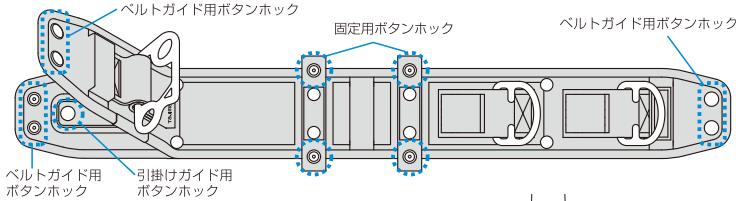
④ベルトガイド用ボタンホックを留めて、ベルトガイドを固定します。



【取付け完成図】

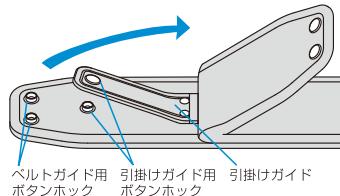
SEG ハーネス

〈ハーネスとの接合使用部〉

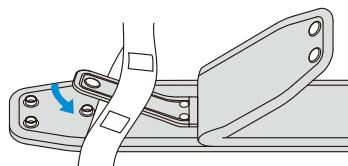


①柱上用胴当てベルト中央上側の固定用ボタンホックとハーネスの接合部の固定用ボタンホックの位置を合わせて、しっかりとはまるように奥まで押し込み止めてください。

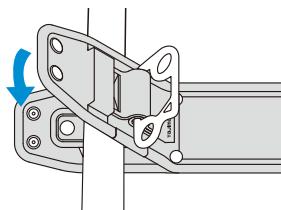
②ベルトガイド用ボタンホックを外し、ベルトガイドを開きます。露出した引掛けガイド用ボタンホックを外します。



③引掛けガイドに図のようにハーネスの固定用ループ部を通します。その後、引掛けガイド用ボタンホックを閉じて固定します。その際ベルトがよじれなないようにご注意ください。



④ベルトガイド用ボタンホックを留めて、ベルトガイドを固定します。



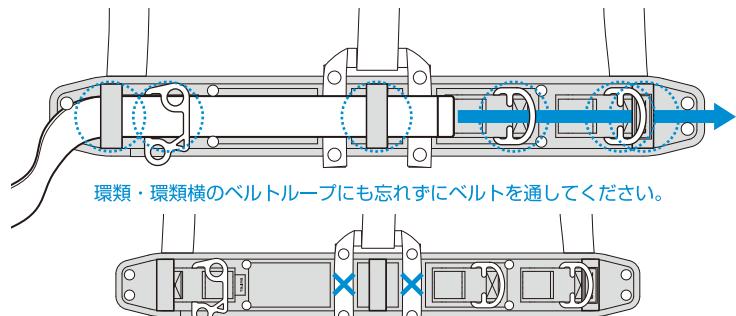
【取付け完成図】

4-3. 脇ベルトの取付け方法

※イラストはCFXシリーズです。CCXシリーズも同じ取付け方法です。
D環は、650サイズは1個、750・850サイズには2個ついています。

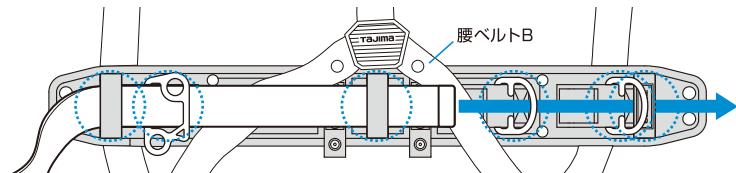
4-2の方法でサスペンダー、ハーネスを取付けた後に、図のように脇ベルトを柱上用胴当てベルトの環類とベルトループに通します。

SEG サスペンダー

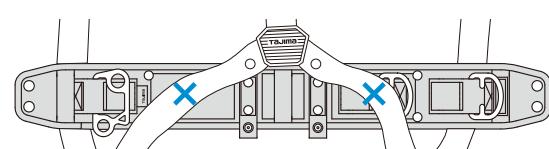


〈注意〉 サスペンダーの固定用ループに脇ベルトは通さないでください。

SEG ハーネス



ハーネスの腰ベルトBが環類内側にくるように取付けてください。
環類・環類横のベルトループにも忘れないにベルトを通してください。



〈注意〉 ハーネスの腰ベルトBの下に脇ベルトは通さないでください。

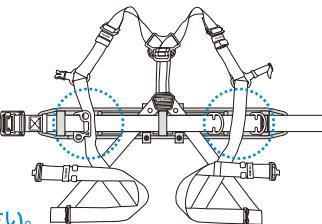
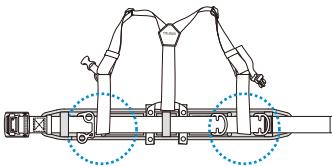
〈ご注意〉下記製品の組合せの場合は、柱上用胴当てベルトの「引掛けガイド」は使用せずに、胴ベルトをそれぞれの固定用ループに通してください。

〈対応表〉※1の組合せの場合

CFX850・CCX850

サスペンダー〈Sサイズ〉

ハーネス〈Sサイズ〉



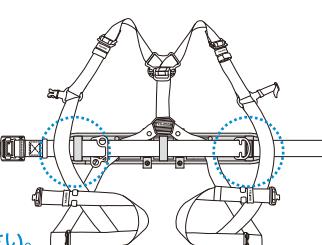
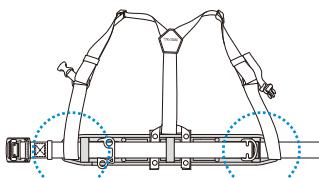
※固定用ループを通す位置にご注意ください。

〈対応表〉※2の組合せの場合

CFX650・CCX650

サスペンダー〈Lサイズ〉

ハーネス〈Lサイズ〉



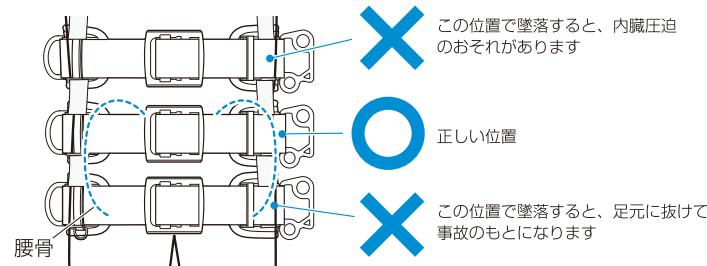
※固定用ループを通す位置にご注意ください。

4-4. 柱上用胴当てベルトの装着位置

柱上用胴当てベルトに装着した胴ベルトは腰骨の位置でしっかり締めてください。

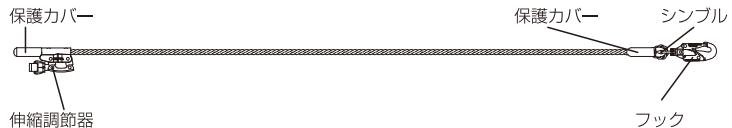
ベルトはできるだけ腰骨の近くで墜落阻止時に足部の方へ抜けない位置で、胸部へずれないよう確実に装着してください。

腰骨の位置で身体にフィットするようにしっかり締めてください。



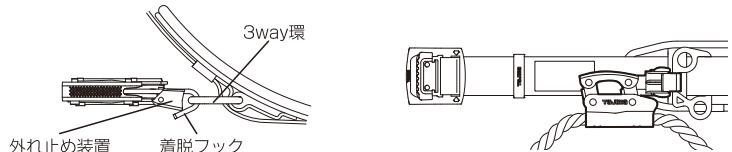
5. 柱上用ランヤード

5-1. 柱上用ランヤード 各部名称



5-2. 伸縮調節器を3way環に取付ける方法

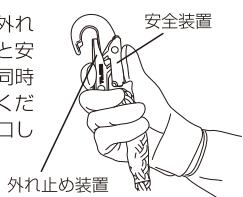
着脱フックの外れ止め装置が身体の外側にくるように3way環に取付けてください。



5-3. フックの操作方法及び掛け方

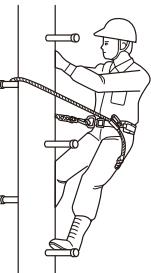
●フックの操作方法

フックは外れ止め装置と安全装置を同時に握ってください。開口します。



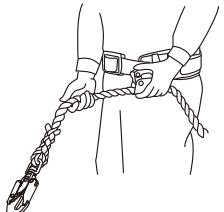
●フックの掛け方

ランヤードは使用中滑り落ちないように腰より高い位置に掛け、フックを柱上用胴当ベルトのD環にかけてください。

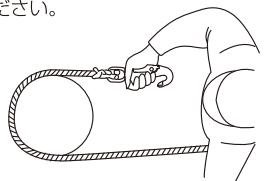


5-4. 柱上用ランヤードの使用方法

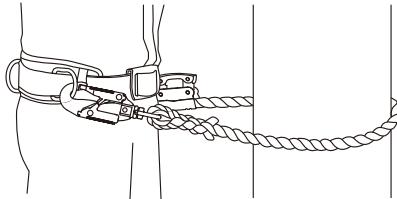
①左手で伸縮調節器を握り、右手でロープを引き出してください。



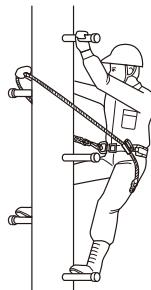
②ロープを構造物等の後側にまわして、ロープ先端部のフックを、外れ止め装置と安全装置を同時に押させて開いてください。



③フックを、フック開口部が内側になるようにして柱上用胴当ベルトのD環に掛けて閉じた後、ベルトの端や作業服等が巻き込まれていないか、外れ止め装置及び安全装置が完全に閉まっているかを確認してください。



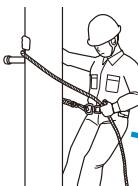
④U字つり状態で昇降するときは、ロープを昇降上必要最小限の長さに調節して、ロープが滑り落ちないように絶えずステップボルト等の突起物の上方にロープをかけて、昇降してください。



5-5. 伸縮調節器の操作方法

●ランヤードを長くする方法

まず電柱などの構造物に手を添え体を支えた後、伸縮調節器を操作して押爪のロープへの噛み込みを解除しながら腰を引き（構造物より離れ）、希望の長さになった位置で操作を止めるとランヤードの長さが固定されます。その後ゆっくりと全体重をかけてください。



●ランヤードを短くする方法

構造物に手を添え体を支え、ロープの端部を握り、腰を構造物の方へ寄せながら後ろへ引いてください。伸縮調節器の操作をすることなくランヤードの長さが縮まります。希望の長さになればやっくりと全体重をかけてください。



(注)伸縮調節器は作業時に加わる体重で内部の押爪がロープを噛み、任意の位置で停止します。

押爪には体重が加わらないような使用方法、あるいは押爪を浮かすような使用はしないでください。

6. 必ずお守りください（使用上の注意事項）

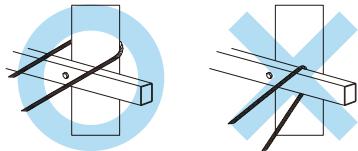


危険 誤った使い方をしますと、墜落などの危険性がありますので、絶対にやめてください。

● ランヤードは堅固な構造物に回し掛けしてください。

ランヤードは、構造物から抜けたり破損したりする危険性がなく、墜落阻止時の衝撃に十分耐えるものを選んで回し掛けしてください。

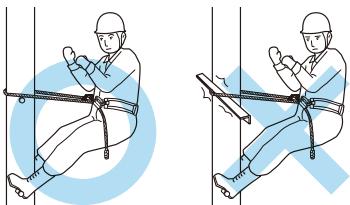
弱い構造物に取付けると、墜落阻止時の衝撃荷重で構造物が破損し、墜落する危険性があります。



● ランヤードが鋭い角に触れないようにしてください。

ランヤード（ロープ）が鋭い角に触れる危険性のある所では使用しないでください。

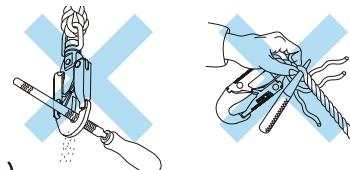
墜落阻止時に鋭い角でロープが切断することがあり危険です。したがって、鋭い角のある構造物を避けてランヤードを掛けるか、または構造物に丈夫な布などの保護材を巻いてご使用ください。



● 改造や部品の取外し等の加工は絶対に行わないでください。

分解・改造することは安全帯としての性能を十分に発揮できないばかりか、危険な状況の発生を考えられますので、絶対におやめください。

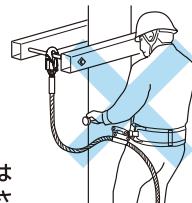
また、絶対にご自分でさつま編み加工をしないでください。



● 1本つり使用をしないでください。

1本つりの状態で落下した場合、墜落時に大きな衝撃荷重が加わり、安全帯が破断して重大な事故が起こるおそれがありますので絶対に使用しないでください。

組合わせて使用される安全帯の取扱説明書もあわせてご覧いただき、正しくお使いください。



● 柱上用胴当てに胴ベルトを取付ける際は必ず全てのベルトループ、環類を通してください。



警告 誤った使い方をしますと、墜落などのおそれがありますので、やめてください。

● 溶接の火花、強い酸やアルカリ、油、その他高温高熱の物体や化学薬品類が製品に付着しないようにしてください。

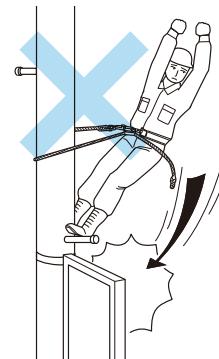
● 安全帯は-10°C~50°Cの範囲で使用してください。

安全帯の使用温度が、-10°C~50°C以内であっても水に濡れて凍結すると、フックの外れ止め装置と安全装置、バックルのスライド部、伸縮調節器が作動しないおそれがあります。操作する上で異常がないか確認しながらお使いください。

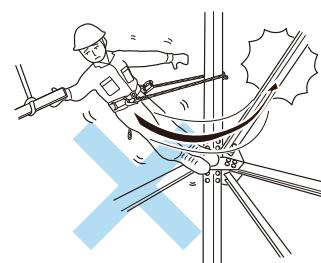
● ランヤードは墜落阻止時に床面または下方の障害物に衝突しない位置に回し掛けしてください。

墜落阻止時に人体が床面（または下方の障害物）に衝突しない位置でランヤードを回し掛けしてください。

ランヤードの掛ける位置が低い場合、床面や下方の障害物に衝突して、けがをするおそれがあります。



● ランヤードは振り子状態にならない位置で回し掛けしてください。



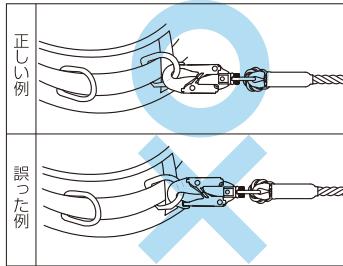
● ランヤードは滑り落ちない所に回し掛けしてください。

ランヤードは腰より高い位置で、滑り落ちない所に掛けてください。

●フックは正しく柱上用胴当てベルトのD環に掛けてください。

フックは、こじられたり、外れ止め装置および安全装置がベルトや構造物などで作動方向に押されないように掛けしてください。（フックの形状と掛け方の一例を示します）

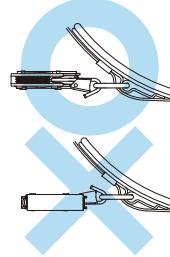
誤った掛け方をすると外れ止め装置や安全装置がねじられ、または押さえられてフックがD環から外れ、事故のもとになります。



●伸縮調節器は正しく3way環に掛けてください。

伸縮調節器の着脱フックの外れ止め装置の動作を確認するとともに、作業服等が巻込まれていないことを目視で確認してください。

着脱フックの外れ止め装置を内側（身体側）にすると、ベルトの先端金具や作業服が外れ止め装置に巻込まれて開口し、伸縮調節器が3way環から外れて事故のもとになります。



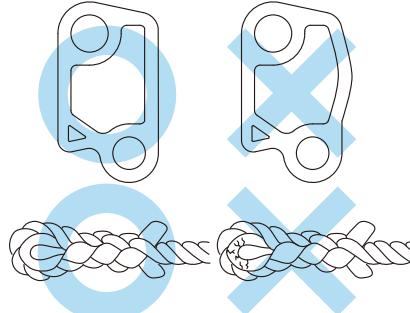
●フックや伸縮調節器に工具袋や金具が接触しないようにしてください。

フックや伸縮調節器に工具袋や金具が接触すると、フックの外れ止め装置が押されて開口したり、伸縮調節器の押爪を解除するおそれがあります。

●一度でも大きな荷重が加わったものは廃棄してください。

右図のような変形があれば、安全帯全体を廃棄してください。

外見上の変形がなくても、一度でも大きな荷重が加わったものは再び落下すると衝撃荷重が大きくなり、安全限界を超えて人体に損傷を及ぼすおそれがあります。

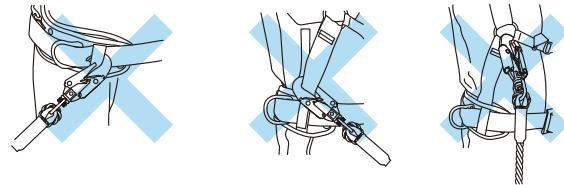


●フックは柱上用胴当てベルトのD環に目視で掛けてください。

D環に作業服などがかぶさっているおそれがあります。

●柱上作業時は柱上用胴当てベルトのD環以外のところに柱上用ランヤードのフックを掛けないでください。

強度不足で事故のもとになります。



● 雨の日は感電に注意してください。

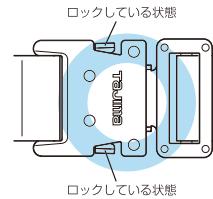
●柱上用安全帯は墜落災害の防止用ですので他の用途には使用しないでください。

●差込みプレートが確実にロックしていることを確認してください。

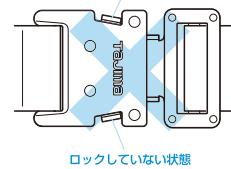
ワンタッチバックルベルト仕様

差込みプレートは両方のロック解除レバーの位置が下図に示す状態になるまで「カチッ」と音がするまで差し込んでください。

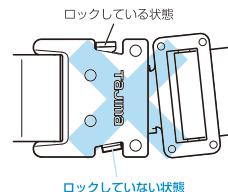
〈両方ロックしている状態〉



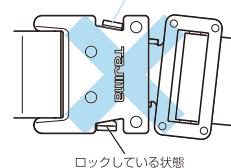
〈両方ロックしていない状態〉



〈上だけロックしている状態〉



〈下だけロックしている状態〉

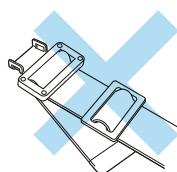
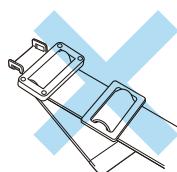
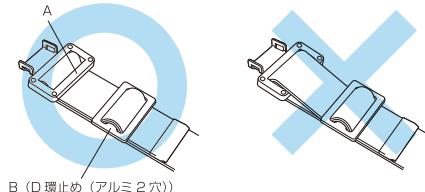


差込みプレートを確実にロックしていないと、墜落阻止時に差込みプレートが本体から抜けて重大な事故になります。特に片方だけロックしている状態にならないようにご注意ください。

●ベルトを本体又は差込みプレートの長さ調整金具とベルト通しに

正しく通してください。**ワンタッチバックルベルト仕様**

ベルトを差込みプレートのAの部分とB(D環止め(アルミ2穴))に通し、先端部が外側になるように正しく通してください。

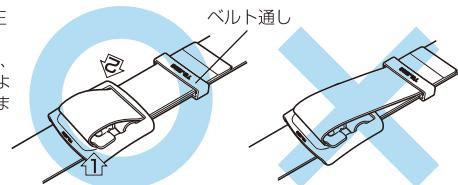


ベルトの通し方を間違えると、墜落阻止時にベルトがバックルから滑り抜けて、事故のもとになります。

●胴ベルトをバックルに正しく通してください。

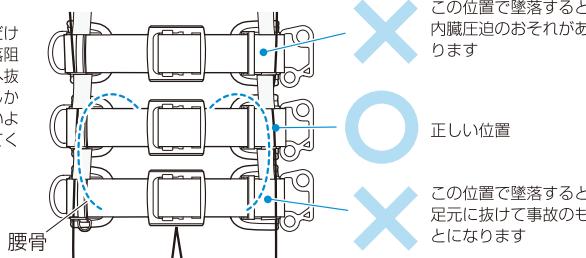
ワンフィンガーバックルベルト仕様

ベルトを矢印から順に正しく通し、最後にベルト通しに通してください。通し方を誤ると、墜落阻止時にベルトがバックルより滑り抜けて事故のもとになります。



●胴ベルトは腰骨のところに締めてください。

ベルトはできるだけ腰骨の近くで墜落阻止時に足部の方へ抜けない位置で、しかも胸部へずれないよう確実に装着してください。



⚠ 注意 安全にお使いいただくためにお守りください。

●本品は腰に装着した時に、左側に3way環、右側にD環が来るよう装着してください。

上下逆になると腰にフィットせず、安全に使用していただくことができません。

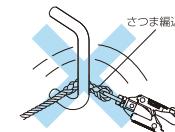
●安全帯は屋外に放置しないでください。

ベルト・ランヤードは合成繊維製のため紫外線によっても強度が低下します。

●柱上用胴当てベルト・胴ベルト・柱上用ランヤードは同一業者・同一形式のものを組合せてください。

異なるメーカーのものを組合せて使用すると必要強度や機能が得られない場合があります。

●さつま編込部に屈曲作用が加わるような使い方はしないでください。



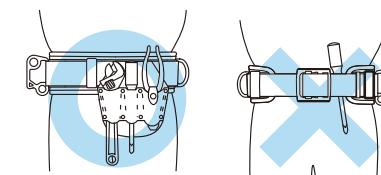
さつま編込部やさつま編込部の際に過度の屈曲が繰り返されると、さつま編込部に型崩れや緩みが生じる場合があります。

さつま編込部に“屈曲としこぎ”が加わった場合は、“点検と廃棄の基準”に説明しているロープのさつま編込部の乱れ・緩み・抜けの状態を十分に点検してください。

●使用前には伸縮調節器に異常がないか確認してください。

使用前には地上で電柱等の構造物にランヤードをU字掛けして体重をかけ、伸縮調節器に滑りがないか確認してください。

●墜落阻止時に身体に傷をつけるおそれがありますので、工具類はペンチケース・腰袋等に入れてください。



●丁寧に扱ってください。

ランヤードを引き出すと、フックに砂などの異物が付着したりします。使用しない時はランヤードを首に掛けるか、3way環にフックをかけてランヤードを腰に吊り下げてください。

7. 点検と廃棄の基準

安全帯および安全帯関連器具は消耗品であり、使用しているうちに摩耗などにより性能が低下します。従って点検において 1 項目でも廃棄基準に達しているものは、機能不良や強度不足になりますので新品と取替えてください。

- 始業点検**：使用する人が作業前（装着時）に毎回行ってください。
 点検後地上で安全帯を装着し、異常のないことを確認してください。
- 定期点検**：使用者もしくは管理者により 1 カ月ごとに行ってください。
- 異常点検**：作業中安全帯に異常を感じたら直ちに作業を中止し、再点検を行ってください。

●安全帯点検チェックリスト [日常の点検を励行してください。]

廃棄基準に達しているものは新品と取替えてください。

（このチェックリストをコピーして点検時にご使用ください）

○：異常なし
×：異常あり
年　月　日

点検項目		廃棄基準	判定
ベルト	両耳	摩耗・擦り切れ 3mm 以上の摩耗・擦り切れるあるもの	
		切り傷 3mm 以上の切り傷のあるもの	
		焼損・溶融 3mm 以上の焼損・溶融しているもの	
	幅の中	摩耗・擦り切れ 3mm 以上の摩耗・擦り切れるあるもの	
		切り傷 3mm 以上の切り傷のあるもの	
		焼損・溶融 3mm 以上の焼損・溶融しているもの	
	全 体	葉品・塗料 3mm 以上付着しているもの	
		切り傷 3mm 以上の切り傷のあるもの	
		焼損・溶融 3mm 以上の焼損・溶融しているもの	
	縫製部	先端止めの変形 パックルに通らなくなつたもの	
胴ベルト・胸当ベルト	バックル	縫糸 1 カ所以上切断しているもの	
		変形 綺まり具合が悪いもの	
		リベットのカシメ部にガタ・変形があるもの	
		深さ 1mm 以上の摩滅・傷・亀裂があるもの	
		リベットのカシメ部が 2 分の 1 以上摩滅しているもの	
		モールの適合部が摩滅しているもの (正しく装着し、腹部に力を入れてベルトがゆるむもの)	
		錆 全体に錆が発生しているもの	
		ばね 折損・脱落しているもの	
		変形 目視で確認できる変形のあるもの	
		摩滅・傷 深さ 1mm 以上の摩滅・傷・亀裂があるもの	
	環類	錆 全体に錆が発生しているもの	

点検項目		廃棄基準	判定
ランヤード	ロープ	切り傷 1リード内に 7 ヤーン以上の切り傷があるもの	
		摩耗 摩耗して、棒状になったもの 赤芯入りロープの場合は赤芯が見えるもの	
		キンク キンクまたは 7 ヤーン以上の異常な飛び出しや形くずれのあるもの	
		葉品・塗料 汚れ・変色・硬化しているもの	
		焼損・溶融 1リード内に 7 ヤーン以上焼損・溶融しているもの	
		シンブル 脱落しているもの	
		ざつま編 抜けているもの	
		ストランドの乱れや端末部の余長が引き込まれているもの	
		さつま編込部に 屈曲・しごき荷 重が加わった場合の抜け現象 (抜け現象が進み始まっている)	
		型崩れが進みストランドに乱れが生じているもの (抜け現象が進み危険な状態です。ただちに使用を中止してください)	
	フック	ロープのさつま編込部の端末は溶断処理をしておりますが、長時間の使用によって バラけることがあります。この端末がバラける状況は強度上特に問題はありません	
		変形 末端部の余長が 2cm 以下になっているもの	
		変形 (抜け現象が始まっている)	
		変形 型崩れが進み危険な状態です。ただちに使用を中止してください	
		変形 ロープのさつま編込部の端末は溶断処理をしておりますが、長時間の使用によって バラけることがあります。この端末がバラける状況は強度上特に問題はありません	
伸縮調節器	伸縮調節器	変形 外れ止め装置の閉閉操作の悪いもの	
		変形 リベットのカシメ部にガタつきがあるもの	
		摩滅・傷 深さ 1mm 以上の摩滅・傷・亀裂があるもの	
		錆 リベットのカシメ部が 2 分の 1 以上摩滅しているもの	
		ばね 全体に錆が発生しているもの	
		変形 折損・脱落しているもの	
		変形 ロープの伸縮調節が困難なもの	
		摩滅・傷 深さ 1mm 以上の傷があるもの	
		錆 リベットの頭部が 2 分の 1 以上摩滅しているもの	
		ばね ロープとの嵌合部（押爪）が摩滅しているもの (正しく操作し、ロープの長さを調節できないもの)	
	伸縮調節器	錆 ロープの伸縮調節が困難なもの	
		摩滅・傷 深さ 1mm 以上の傷があるもの	
		錆 リベットの頭部が 2 分の 1 以上摩滅しているもの	
		錆 ロープとの嵌合部（押爪）が摩滅しているもの (正しく操作し、ロープの長さを調節できないもの)	
		ばね 全体に赤錆または著しい腐食が発生しているもの	
		ばね 折損または脱落してロープを把持できないもの	

1 項目でも廃棄基準に達しているものは使用しないでください。

安全帯の廃棄基準の一例

摩耗・擦り切れ・切り傷・焼損・溶融		摩耗・擦り切れ・切り傷・焼損・溶融	
ベルト 両耳	 3mm以上の摩耗・切り傷があるもの	幅の中	 3mm以上の摩耗・切り傷があるもの
変形		摩減・傷	
バックル 環類	 変形し、締まり具合の悪いもの	 1mm以上の摩減、傷があるもの	
変形		摩減・傷	
三つ打ちロープ キング	 目視で変形が確認できるもの	 1mm以上の摩減、傷があるもの	
切り傷		摩耗	
薬品・塗料 塗料が付着して硬化しているもの、また薬品が付着し、変色しているもの	 1リード内でファーン以上切っているもの	 外装ヤーン及びファーン以上摩耗しているもの	
葉品・塗料		損傷・溶融	
キンク さつま編	 塗料が付着して硬化しているもの、また薬品が付着し、変色しているもの	 ファーン以上溶解があるもの	
キンクまたは7ヤーン以上の異常な飛び出しや形くずれのあるもの		シンプル損傷	
フック 変形	 さつま編	 シンプルが変形しているものや脱落しているもの	
さつま編が1箇所でも抜けているもの		各ストラップに乱れが生じ、端末部の余長が引き込まれているもの	
変形		摩減・傷	
伸縮調節器 变形	 外れ止め装置の開閉操作の悪いもの フックが曲がったもの	 1mm以上の摩減、傷があるもの	
变形によりロープの伸縮調整ができないもの		1mm以上の摩減、傷があるもの	

8. 保管と手入れのしかた

●安全帯は次のような場所で保管してください。

- ①直射日光に当らない所。
- ②風通しがよく、湿気のない所。
- ③火気・放熱体などが近くにない所。
- ④腐食性物質を置いていない所。
- ⑤塵埃の少ない所。
- ⑥子供が遊びに使ったり、動物が製品に損傷を与えたいためしないような場所。

●物品の下積みなどにより傷や変形が起こらないようにしてください。

●ベルト・ランヤードに泥・埃・油・塗料が付着している場合は、乾い た布などで拭き取ってください。

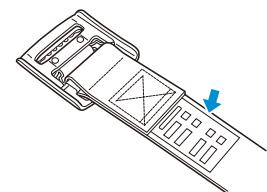
●フック・バックルなどの金具は付着した砂・土・水などを拭き取り、 可動部に時々注油してください。

9. 交換の目安（耐用期間）

使いかたによって異なりますが、交換の目安としては、柱上用ランヤードは使用開始年月より2年、柱上用胴当てベルト・胴ベルトは3年くらいをめどとしてください。

ただし、耐用期間内であっても「7.点検と廃棄の基準」にしたがって点検を必ず実施し、廃棄基準に達したものは使用しないで、新品と替えてください。

●使用を開始した年月をバックル取付部に縫い付けてあるラベルに必ず記入してく ださい（右図参照）。



●柱上用ランヤードを替えた時は、 その年月をラベルに記入してください。

10.性能

項目	「安全帯の規格」
胴ベルト・胴当てベルト	15.0kN 以上
ロープ	19.0kN 以上
フック	11.5kN 以上
伸縮調節器	8.0kN 以上
3way環・D環	11.5kN 以上
環類取付け部	11.5kN 以上
バックルによる連結部	8.0kN 以上

11.お客様相談窓口

この取扱説明書の内容がおわかりになりにくいときや、製品の取扱いについてご不明な点がありましたら、お買い上げの販売店、または下記のご相談窓口にお問い合わせください。

株式会社TJMデザイン

本社/〒174-8503 東京都板橋区小豆沢3-4-3 **0120-125577**
ホームページ <http://www.tajimatool.co.jp>

55607

SZ17071000